

音楽を通じて 子ども達に機会を

世界は新型コロナウイルス感染拡大で、私たちの生活もそれまでとは大きく変わり我慢することが増えました。そんな中で感じるのは、人は心の豊かさがあるこそ、初めて人間らしく生きていられる。芸術や文化、スポーツは私たちの心に安らぎをもたらしてくれる大切なもの。ということ。こんな時代だからこそ「芸術と芸術ではない場所と一緒にいないといけない」と明確になったという田中さん。

才能がひしめき合うクラシック界で活躍する彼女にとって、音楽はどのような存在なのか、また音楽を通じてやりたいことを伺いました。



ソプラノ歌手
田中彩子さん
×
舞鶴市長
多々見良三

【場所】
舞鶴市総合文化会館
大ホール

市長 舞鶴出身で、これだけ世界で活躍されている方がいらつしゃるとは、知りませんでした。最初に聞きたいのは「JAPAN ASSOCIATION FOR MUSIC EDUCATION PROGRAM」という法人のこと。その主旨が、私が普段思っていることと全く同じなんです。田中さんが先頭になって設立されたのですか？

田中さん(以下敬称略) そうです。今後自分のキャリアのためだけに音楽を続けていくことにあまり興味が無いというか、執着心がなくて。でも音楽を続けていくときに、誰かの役に立つことができたらいいなと数年前から思っていました。そんな中、いろんな方に出会っていろんな国の状況を見て、未来を担う子ども達に何かできないかなと

考えていたところ、SDGsの活動を知りました。SDGs(※)の理念は皆ができること。皆が少しずつでもできるようなこと。じゃあ、音楽を通じて何かできないかと。南米のブエノスアイレスに「子ども達のオーケストラ」があります。そのオーケストラは貧富に関係なく、全員がオーディションを受けて、受かった子だけが入れます。どんな環境に生まれていようが、演奏している時は平等な世界。それってある意味本当に目指すべき姿だと。その子たちと日本の子も達を会わせたいなと思っただけです。子ども達にとって何かを「知る」ということは、大きな財産です。そういうきっかけを作ることができると環境を用意するのが大人の役割りなのかなと

思い、昨年、法人を設立して「SDGsと芸術」「SDGsと音楽」を柱に活動しています。

市長 舞鶴市はSDGs未来都市にも選ばれ、AIなどの先進技術を活用して、利便性を上げたり地域課題の解決につなげたりして「心が通う便利で豊かな田舎暮らし」の実現を目指しています。

私は、市内7中学の2年生の子ども達に夢や志を持つことの大切さを話しています。夢は自分のためですが、志は世のため人のためにどう尽くすかという事です。周りの大人たちの「君はこれが得意だから、こんなことをしたらどう？」というアドバイスがその子の将来の選択に極めて重要になると思っています。

田中 自分のためだけにやっているより、誰かのためにやっているのとエネルギーがすごく出て結果的にそれが自分に返ってくる感覚をいつも感じています。

市長 そういった生き方をしているところ周りは見ていてくれる。回りまわって何かあった時には仲間が助けてくれますね。

田中 自分の中のもう一人の自分が「多分無理」と言ったんです。自分で自分を



田中彩子さんプロフィール

1984年生まれ。オーストリアのウィーン在住。ソプラノ歌手。西舞鶴高等学校を卒業後、18歳の時に単身でウィーンに渡り、ゼロから声楽家としての道を歩む。22歳という若さでソリストデビューを飾り、世界で活躍する。ソプラノの中でもさらに高い音域のコロラトゥーラは透き通るような歌声が特徴で「天使の声」と称され、その歌声を操る数少ない一人。2019年、Newsweek誌「世界が尊敬する日本人100人」に選出。

田中 自分のためだけにやっているより、誰かのためにやっているのとエネルギーがすごく出て結果的にそれが自分に返ってくる感覚をいつも感じています。

市長 そういった生き方をしているところ周りは見ていてくれる。回りまわって何かあった時には仲間が助けてくれますね。

田中 自分の中のもう一人の自分が「多分無理」と言ったんです。自分で自分を

田中 自分の中のもう一人の自分が「多分無理」と言ったんです。自分で自分を

※SDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)
国連で決められた2030年までに達成すべき国際目標のこと。「貧困をなくす」「質の高い教育をみんなに」「生きがいも経済成長も」など、17の目標を掲げ、世界中の誰一人として取り残さないことを誓っています。